

# 外力について(3)



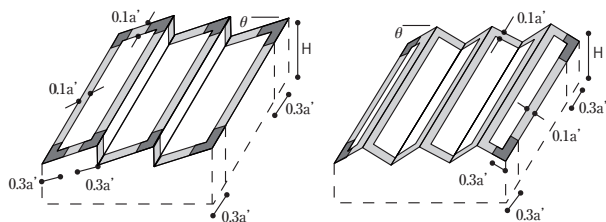
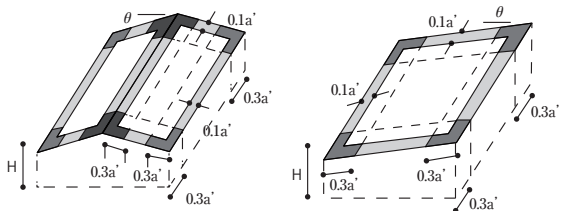
## 風荷重③

### ピーク風力係数について

#### ●切妻屋根面、片流れ屋根面及びのこぎり屋根面の負のピーク外圧係数

部位	$\theta$	10度以下の場合	20度	30度以上の場合
の部位		-2.5	-2.5	-2.5
の部位		-3.2	-3.2	-3.2
の部位		-4.3	-3.2	-3.2
の部位		-3.2	-5.4	-3.2

この表において、部位の位置は下図に定めるものとする。また、表に掲げる $\theta$ の値以外の $\theta$ に応じたピーク外圧係数は、表に掲げる数値をそれぞれ直線的に補間した数値とし、 $\theta$ が10度以下の切妻屋根面については、当該 $\theta$ の値における片流れ屋根面の数値を用いるものとする。

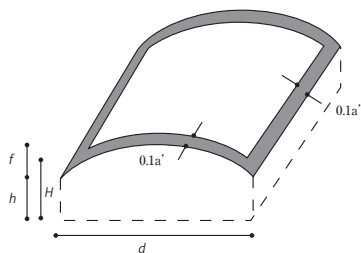


この図において、 $H$ 、 $\theta$ 及び $a'$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。  
 $H$ ： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位：メートル)  
 $\theta$ ： 屋根が水平面となす角度(単位：度)  
 $a'$ ： 平面の短辺長さ $a$ と $H$ の2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする)(単位：メートル)

#### ●円弧屋根面の負のピーク外圧係数

の部位	-2.5
の部位	-3.2

この表において、部位の位置は、下図に定めるものとする。

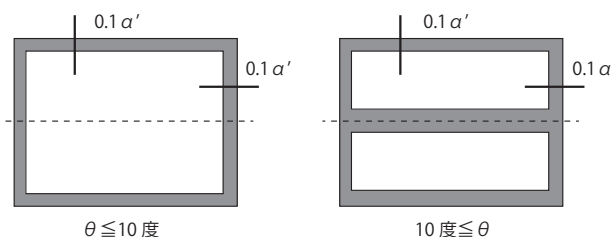


この図において、 $H$ 、 $d$ 、 $h$ 、 $f$ 及び $a'$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。  
 $H$ ： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位：メートル)  
 $d$ ： 円弧屋根面の張り間方向の長さ(単位：メートル)  
 $h$ ： 建築物の軒の高さ(単位：メートル)  
 $f$ ： 建築物の高さと軒の高さとの差(単位：メートル)  
 $a'$ ： 平面の短辺の長さ $a$ と $H$ の2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする。)(単位：メートル)

#### ●独立上家の風圧係数 $C_{fi}$ にける係数 $G_{pe}$ (勾配10°以下の最大値: $C_{fi}=-1.0$ )

の部位	3.0
の部位	4.0

この表において、部位の位置は、下図に定めるものとする。

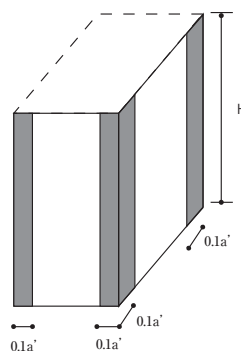


この図において、 $\theta$ 及び $a'$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。  
 $\theta$ ： 屋根面が水平面となす角度(単位：度)  
 $a'$ ： 平面の短辺長さ $a$ と $H$ の2倍の数値のうち、いずれか小さな数値(30を超える時は、30とする。)(単位：メートル)

#### ●帳壁の負のピーク外圧係数

部位	H	(1)	(2)	(3)
	45以下の場合	45を超え、60未満の場合	60以上の場合	
の部位	-1.8		-2.4	
の部位	-1.8	(1)と(3)とに掲げる数値を直線的に補間した数値		-3.0

この表において、部位の位置は、次図に定めるものとする。



この図において、 $H$ 及び $a'$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。  
 $H$ ： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位：メートル)  
 $a'$ ： 平面の短辺の長さ $a$ と $H$ の2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする。)(単位：メートル)

#### ●帳壁のピーク内圧係数

閉鎖型の建築物	ピーク外圧係数が0以上の場合	-0.5
	ピーク外圧係数が0未満の場合	0
開放型の建築物	風上開放の場合	1.5
	風下開放の場合	-1.2

かんこう折板

馳折板

重ね折板

各種加工施工要領

よこぶき

たてぶき

改修用

各種屋根

外装材

建築素材・資材

参考納め図

技術資料